

6

第3章 中世の日本

中世社会の成立

学習1 荘園の成立と武士の登場

□10世紀になると、貴族や寺社(荘園領主)に土地を寄進して荘園とし、自らは荘官となって土地の管理を行う者が現れました。そして、政府から税を免除(不輸)され、荘園への役人の立ち入りを認めない(不入の特権)を持つ荘園が増えていきました。

□9世紀末ごろから、武芸を身につけ武士(兵)とよばれる者が現れ、有力な武士を中心に武士団がつくられました。関東で平将門が、西日本で藤原純友が乱を起こしました(天慶の乱)が、これらをしずめたのも他の武士たちでした。武士は朝廷や貴族の護衛などを任されるようになっていきました。

□天皇の子孫を統率者(棟梁)とする源氏(清和源氏)と平氏(桓武平氏)は、有力な武士団でした。源頼義は子の義家とともに、豪族の安倍氏を倒し(前九年合戦)、その後義家が清原氏の反乱もしずめました(後三年合戦)。やがて東北地方では奥州藤原氏が成長し、平泉(岩手県)に中尊寺金色堂を建てました。

学習2 院政と武士の成長

□藤原氏と血縁関係のうすい後三条天皇が即位すると、摂関政治の力が弱まりました。白河天皇は11世紀末に退位して上皇となつても、政治の実権を握り続けました。この政治を、上皇やその住む御所を「院」とよんだことから院政といいます。

□12世紀の半ばになると、天皇と上皇の対立や近臣の対立が起こりました。後白河天皇は平清盛や源義朝を味方につけ兄の上皇に勝利しました(保元の乱)。3年後、後白河上皇の政権内で対立が起き、清盛と義家が争って清盛が勝利しました(平治の乱)。2つの乱に勝利した平清盛は、後白河上皇に重く用いられ、武士として初めて、太政大臣になりました。

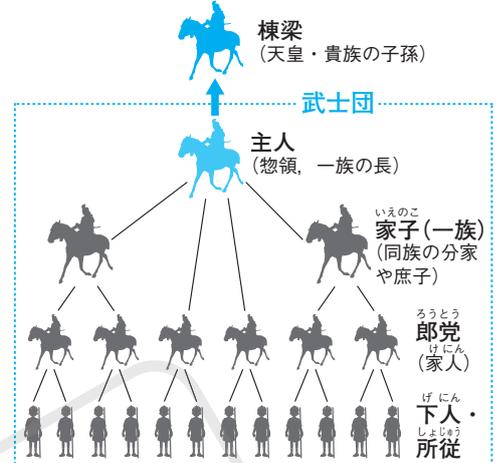
□清盛は大輪田泊(兵庫県)を整備し、日宋貿易を積極的に行いました。一方で、自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた子を天皇にして政治の実権を握ったため武士たちの不満が高まりました。

□清盛が後白河上皇と対立すると、上皇の皇子が平氏の討伐をよびかけ、源頼朝らが挙兵し、源平の争乱が始まりました。1185年に、頼朝の弟の源義経が、壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼしました。

学習3 鎌倉幕府の成立と執権政治

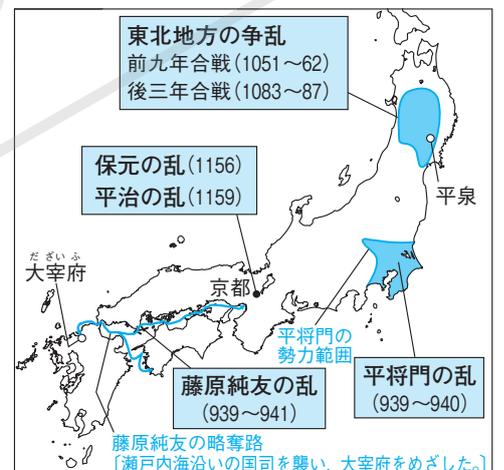
□平氏の滅亡後、頼朝の勢力を恐れた後白河上皇が義経に官位を与

▼武士団のしくみ

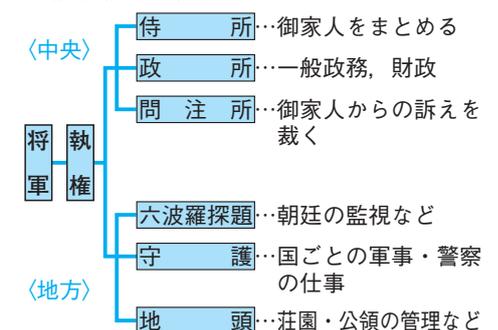


※郎党(家人)は家来、奉公人、所従は下層の従者など。

▼各地の争乱



▼鎌倉幕府の仕組み



えたことから、頼朝と義経の対立が深まりました。義経は挙兵し、上皇も頼朝討伐を命じました。

□頼朝は軍を送って上皇にせまり、義経を捕らえることを名目に、部下である御家人を、各地の守護や地頭として置くことを認めさせました。頼朝は鎌倉に拠点を築いたので、これを鎌倉幕府といい、幕府が鎌倉に置かれた約150年間を鎌倉時代といいます。これ以降、明治維新までの間、朝廷と幕府がともに存在することになりました。また頼朝は、奥州藤原氏が義経をかくまったとして、ほろぼしました。頼朝は1192年に朝廷から征夷大將軍に任命されました。

□將軍と主従関係を結んだ御家人は都などの警備をし、戦いに命がけであったり(奉公)、それに対し將軍は御家人の先祖伝来の領地の支配を認め、手柄に応じて新たな領地を与えるなどしました(御恩)。

□頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻の北条政子と、その父の北条時政がにぎりました。北条氏は、將軍を補佐する執権という地位について政治を行いました。その後、北条泰時は有力な御家人から評定衆を選び、話し合いによって政治を行いました。(執権政治)。

□1221年、後鳥羽上皇は朝廷の権力を回復するために挙兵しました。しかし、上皇は幕府軍に敗れ、隠岐(島根県)に流されました。これを承久の乱といいます。この乱ののち、幕府は朝廷を監視するために京都に六波羅探題を置きました。また、承久の乱で上皇側に味方した武士の土地を取り上げ、御家人に分け与えたことで、幕府の力は西日本にまでおよびました。

用語 * 守護…国ごとに置かれ、国の軍事・警備などにあたった。

* 地頭…莊園・公領ごとに置かれ、年貢の取り立てなどをした。

学習4 文化・宗教・生活

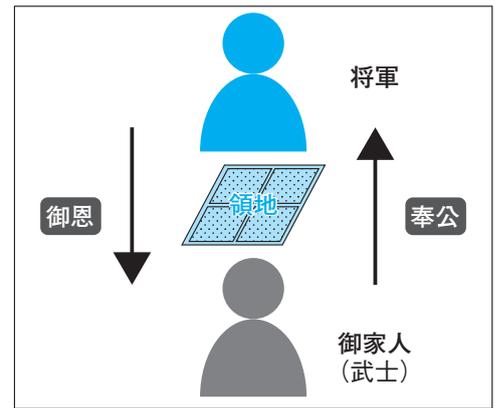
□武士の一族は、本家の家長(惣領)を中心に団結しました。土地などは分割相続が原則であり、兄弟姉妹にも譲られました。

□莊園領主は莊園の管理を地頭に任せたり(地頭請)、莊園を地頭と二分したりすることもありました(下地中分)。

□牛や馬が農作業に利用されるようになり、稲作と畑作の二毛作が行われるようになりました。また、寺社の門前などでは、定期市が開かれ、港では商品などを保管する問(問丸)が活躍しました。

□武士が活躍したことは文化にも影響を及ぼしました。東大寺の南大門に置かれた、運慶や快慶らによって彫られた金剛力士像には武士の力強さが表現されています。また、戦乱が多い世の中で、人々の心の支えとして、新たな仏教が広まりました。

▼御恩と奉公



▼御成敗式目(貞永式目) (一部要約)

- 諸国の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促すること、謀叛や殺人などの犯罪人の取りしまりである。(第3条)
- 地頭は莊園の年貢をさしおさえてはいけない。(第5条)
- 20年以上継続してその土地を支配していれば、その者の所有になる。(第8条)

※1232年、執権の北条泰時は、武士の慣習に基づいて御成敗式目(貞永式目)をまとめました。これは公正な裁判を行うためのもので、武家政治の基準となりました。

【文化】

和歌集…『新古今和歌集』

(藤原定家が編集)

軍記物…『平家物語』

(琵琶法師によって語られた)

隨筆…『方丈記』(鴨長明)

『徒然草』(兼好法師)

【仏教】

法然…浄土宗

親鸞…浄土真宗(一向宗)

一遍…時宗

日蓮…日蓮宗(法華宗)

栄西…臨済宗

道元…曹洞宗

■ 確認問題 ■

1 ●年表で時代の流れをつかもう● ()にあてはまる語を書きなさい。

時代	世紀	年代	できごと	中国
平安時代	10	935	関東で平将門の乱が起こる	五代
		939	瀬戸内地方で藤原純友の乱が起こる	
		960	宋がおこる	
	11	1086	(②)上皇が院政を始める	宋
		1156	(③)の乱が起こり、後白河天皇が上皇に勝利する	
		1159	平治の乱が起こる	
	12	1167	(④)が武士として初めて太政大臣となる	
		1180	伊豆で源頼朝が、木曾で源義仲が挙兵する	
		1185	壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる	
		1192	源頼朝が(⑤)に任命される	
① 時代	13	1203	北条氏が将軍を補佐する(⑥)という役職に就き、政治を始める	
		1221	後鳥羽上皇が(⑦)の乱を起こす	
		1232	北条泰時が(⑧)を定める	
				元

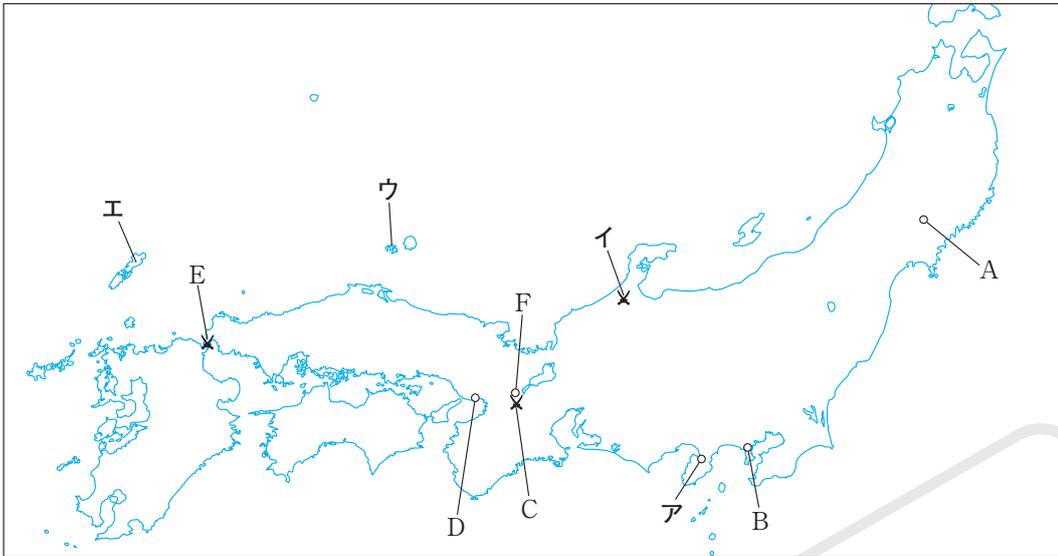
- ① []
- ② []
- ③ []
- ④ []
- ⑤ []
- ⑥ []
- ⑦ []
- ⑧ []

2 ●一問一答● 次の問いに答えなさい。

- (1) 天皇の子孫を棟梁とする武士団として有力だったのは、平氏ともう1つは何氏か。 []
- (2) 壇ノ浦の戦いで平氏をほろぼした、源頼朝の弟はだれか。 []
- (3) 国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事にあたった役職を何というか。 []
- (4) 荘園や公領ごとに置かれ、年貢の取り立て、犯罪の取り締まりなどにあたった役職を何というか。 []
- (5) 源頼朝の死後、鎌倉幕府の実権を握り、執権の地位に就いたのは何氏か。 []
- (6) 重要な政務の処理や、訴訟の裁決にあたらせるため、有力な御家人から選ばれた、執権の補佐をする機関を何というか。 []
- (7) ききんや戦乱など厳しい世の中のありさまなどを描いた随筆『方丈記』の作者はだれか。 []
- (8) 毎年一定額の年貢を納めるかわりに荘園領主が地頭に荘園の管理を一任することを何というか。 []
- (9) 荘園を領主と地頭で分け、お互いに干渉しないことを何というか。 []

基本問題

1 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



- (1) Aを拠点にして権力をふるい、中尊寺金色堂を建立した豪族の名を答えなさい。
- (2) 幕府が置かれたBの地名を答えなさい。
- (3) Cの場所で起こった平治の乱で、平清盛に敗れた人物はだれか。次のア～ウから選びなさい。
ア 源義朝 イ 平将門 ウ 後鳥羽上皇
- (4) Dは、平清盛が整備した大輪田泊があった場所である。この港で清盛が貿易を行った中国の王朝名を答えなさい。
- (5) Eは、平氏が滅亡した場所である。この地名を答えなさい。
- (6) Fには、承久の乱後に置かれた幕府の役所がある。次の問いに答えなさい。
 - ① その役所名を書きなさい。
 - ② その役所の仕事を、次のア～ウから選びなさい。
ア 朝廷の監視と西日本の武士の統制
イ 年貢の取り立て
ウ 荷物の運送
- (7) 次の①・②の場所を、地図中のア～エからそれぞれ選びなさい。
 - ① 平治の乱で源頼朝が流された場所
 - ② 承久の乱で後鳥羽上皇が流された場所

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	①
	②
(7)	①
	②

2 右の資料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 資料の①にあてはまる人物の名を書きなさい。
- (2) 資料の②にあてはまる語句で、将軍と主従関係を結んだ御家人が都の警備につとめ、戦いに命がけであったことを何というか。
- (3) 資料の言葉を話した(1)の人物の妻はだれか。

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思い、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしてやっど帰ってきた。それを(①)殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、将軍に(②)するか、今ははっきり言いきってみよ。

(1)	
(2)	
(3)	

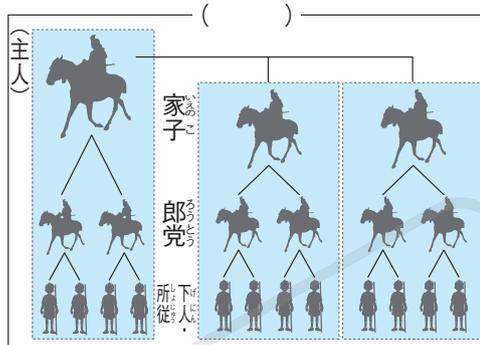
練習問題

1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

10世紀に入ると、貴族や寺社、地方の豪族は私有地(荘園)を広げていった。11世紀半ば過ぎになると、国司の税の取り立てからのがれるために、藤原氏などの貴族や大寺社に所有者になってもらい、持ち主自らは荘官となって、私有地を支配していった。そして、所有する土地を守るために、①武芸を身につけ、戦いを職業とする武士が育ってきた。

(1) 下線部①について、次の問いに答えなさい。

- ① 武士は地方で、右の図のような集団をつくっていた。図の()にあてはまる、このような集団を何というか。
- ② 右の図の集団のかしらで天皇や貴族の子孫を何とよぶか。
- ③ 右の図の集団の中で、天皇の子孫といわれるのは源氏と何氏か。

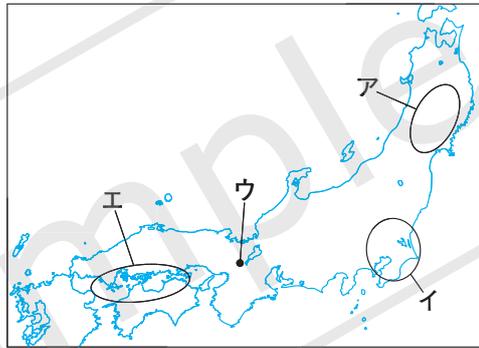


(2) 次のア～ウから鎌倉時代の武士にあてはまるものを選びなさい。

- ア 都の貴族に仕えて、護衛にあたった。
- イ 国司に任命されて地方を治めた。
- ウ 租・調・庸がかけられた。

(3) 次のA、Bの乱が発生した地域を、右の地図のア～エから選びなさい。

- A 平将門の乱 B 藤原純友の乱



1

(1)	①	
	②	
	③	
(2)		
(3)	A	
	B	

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

11世紀中ごろ、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が位に就くと、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。そして、次の白河天皇は①位を皇子にゆずって、(①)となったのちも、政治を行った。

12世紀半ばになると、天皇家や藤原氏の争いなどが起こった。②保元の乱では(②)や(③)を味方につけた後白河上皇が勝利した。こうしたことから武士は武力で争いを解決し、地位を高めていった。

- (1) 文中の①にあてはまる語句は何か。
- (2) 文中の②・③にあてはまる人物を、次のア～エから選びなさい。

ア 平清盛 イ 源義朝 ウ 後三条天皇 エ 持統天皇

- (3) 下線部①の政治を何というか。
- (4) 下線部②の3年後、後白河上皇の政権内で起こった対立を何というか。
- (5) (4)の戦いに勝ち、太政大臣となった人物について、次の問いに答えなさい。

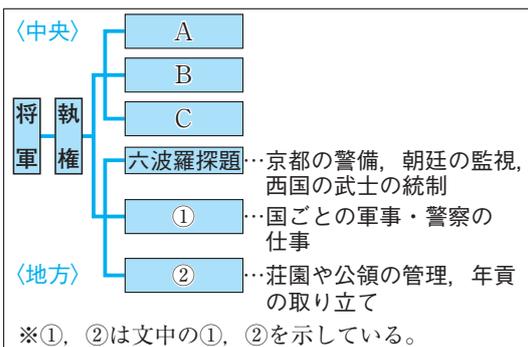
- ㊦ この人物が大輪田泊を整備して行った貿易を何というか。
- ㊧ **表現力** この人物は、どのような方法で政治の実権を握るようになったか。「娘」と「天皇」という語句を使って説明しなさい。

2

(1)		
(2)	②	
	③	
(3)		
(4)		の乱
(5)	㊦	貿易
	㊧	

③ 次の文を読み、右の図を見て、あとの問いに答えなさい。

源平の内乱の間、鎌倉で指揮をとっていた源頼朝は、武家政治のための实际的で簡素なしくみを整えて朝廷にせまり、(①)・(②)を置くことを認めさせた。その後、頼朝は、征夷大将軍に任じられ、鎌倉に初の武家政権を成立させた。頼朝は、御家人に^a新しい領地を^b与え、そのかわりに將軍のために働くことを誓わせた。



- (1) 文中と図中の①・②にあてはまる語句を書きなさい。
- (2) 図中のA～Cにあてはまる語句を、次の文をふまえて答えなさい。
 - A 御家人の統率, 軍事と警察の仕事をした。
 - B 一般の政務や財政の仕事をした。
 - C 訴訟や裁判の仕事をした。
- (3) **表現力** 下線部^aはどのような人々か。簡潔に説明しなさい。
- (4) 下線部^bについて、奉公に対して、將軍が御家人の先祖伝来の領地の支配を認め、新しい領地を与えることを何というか。

③

(1)	①	
	②	
(2)	A	
	B	
	C	
(3)		
(4)		

④ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

頼朝の死後、幕府の実権は(①)という地位についた北条氏の手に移った。この後、3代將軍が暗殺され、これを政権奪回の好機とみた^a(②)上皇は、1221年、北条氏を討つ命令を全国に下したが、幕府の大軍の前に敗れた。また、1232年、北条泰時が、武士の社会の慣習に基づいて、御家人に対してつくった裁判の基準を示すための法律は、その後、長く武士の政治のよりどころとなった。

- (1) 文中の①にあてはまる語句を書きなさい。
- (2) 文中の②にあてはまる語句を書きなさい。
- (3) 下線部^aのあと、朝廷の監視のために、京都に置かれた役所を、次のア～エから選びなさい。
ア 問注所 イ 六波羅探題 ウ 守護 エ 大宰府

④

(1)	
(2)	
(3)	

⑤ 鎌倉時代の文化や宗教、生活について、次の問いに答えなさい。

- (1) 右の資料は、鎌倉時代に人々に親しまれた作品の冒頭である。この作品の名を書きなさい。
- (2) 各地をまわって、右の資料の作品を武士や民衆に広めた人のことを何というか。
- (3) 戦乱や天災、貴族の没落などから世のはかなさを書いた随筆『方丈記』の作者の名を書きなさい。
- (4) 藤原定家らが編集した和歌集の名を書きなさい。

祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響あり。
沙羅双樹の花の色、
盛者必衰のこともわりをあらわす。
おごれる人も久しからず、
ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者もついにほろびぬ、
ひとえに風の前の塵に同じ。

⑤

(1)	
(2)	法師
(3)	
(4)	